

検証 拓銀の崩壊

<5> 10.10.10



第1部 「迷走の果て」

東京本部

拓銀が都市銀行として本州展開する拠点だった

を受け入れの条件と考えていた。破談のシナリオも視野に示すこともなかった。ある大手生保の幹部は「切迫している状況はさすが、随分のんびりしていた」と、対応の甘さを感じていた。

「それなら詳しい話を聞か

なければ、事務方に検討させ

九月十二日の合併延期発表と同時に、拓銀は千五百億円規模の増資計画を正式に発表

ました。拓銀の感触とは違っ

「持株比率が独占禁止法にひっかかるのでは」「大蔵省の意向が分からない」「銀行増資には協力してほしい」と要請する河谷に、波多は「現状では問題点が多く、引き受

「敬称略、肩書は当時」
（拓銀問題取材班）

皇居に面した東京・丸の内
の明治生命保険本社。国の重
要文化財にも指定されている
重厚な建物の一室で、波多健
治郎社長と拓銀の河谷禎昌頭
取が向き合った。道銀との合
併交渉がこう着状態に陥った
昨年八月中旬のことだ。

波多「話は分かりました。
できる限りのことは考えま
し
よう」
初めて明らかにしたのは八月
上旬。東京駐在の大野忠二副

「敬称略、肩書は当時」
（拓銀問題取材班）

賭け

同社は拓銀の筆頭株主でも
あり、親密な関係にあった。
河谷は「明治生命は増資要請
に前向き」と受け止めた。

併実現に向け、増資を検討し
の打診に歩いた。「生保の一
部が難色を示したが、感触は
幹部に伝えた。拓銀にとって
決して悪くなかった（幹部）。
は、現状打開への最後の賭
河谷・波多のトップ会談の
日生命保険の藤田讓社長も同

大蔵省も日本債券信用銀行
らめなかった。十月十四日に
は経営実態を調べるための大
蔵省検査が始まる。「不良債
権額が確定すれば、年内にも
正式に増資要請できる」（幹
部）と踏んでいた。
だが、拓銀の破たん、増
資は幻に終わった。

河谷「道銀との合併交渉
が難航しています。合併実現
には不良債権を処理しなければ
なりません。そのためにも
増資への協力をお願いした
い」

結果を受け、拓銀の役員は分
じころ、河谷から増資の話を
を兼ねて明治生命を訪れ「合
担して生保や大手銀行へ増資
聞かされた。

増資を要請された生保、銀
はその後、なぜか積極的に増
行などは、道銀との合併実現」
資要請をすることもなく、不

生保頼みの増資幻に

拓銀が増資の意向を行外に

頭取が、合併交渉の現状報告

増資を要請された生保、銀
はその後、なぜか積極的に増
行などは、道銀との合併実現」
資要請をすることもなく、不